

環境や教育など課題克服に

p57-16

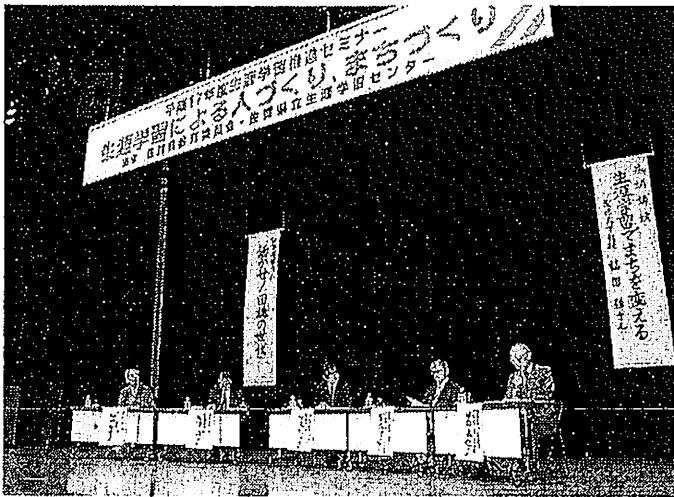
団塊世代の経験生かせ

生涯学習セミナーに200人

佐賀市

十月の生涯学習推進月間に合わせた「生涯学習推進セミナー」が六日、佐賀市のアバンセで行われた。講演やシンポジウムで、今後一斉に定年退職を迎える団塊世代の経験や知識を地域社会の創造に生かす手法を探った。

アバンセ 推進月間に合わせ



「活かせ」団塊の世代」のテーマで論じ合ったシンポジウム。佐賀市のアバンセ

一九四七―四九年生まれの団塊の世代は県内で約四万三千人。二〇〇七年から退職期を迎える。セミナーは教育や行政関係者、一般市民ら約二百人が参加した。

聖徳大学の福留強教授が「生涯学習でまちを変える」と題して基調講演。福留教授は、団塊の世代を含む中高年以上を「創年」と前向きに定義づけ、「仕事とすじ人間が地域に出て浮いてしまう」と現状分析。「生きがいとは社会とかわるごと。どのように生きがいを持つかが重要だ」とアドバイスした。

シンポジウムでは、多久市の横尾俊彦市長の三

人がパネリストとして実践例を紹介。佐賀銀行文化財団事務局長で、NPO活動にも取り組む多良淳二さんは「地域には環境、教育、福祉など多様な課題があり、行政任せでなく、自分たちの手でできることも多い」と、地域での「仕事おこし」を提唱した。(岳)

(詳細は後日、「論説ワイド」で紹介します)